

オペレッタの取り組みから見えること
—平成 29 年度オペレッタ『不思議の国のアリス』の取り組み—

久世 安俊

What can be seen from Operetta's approach
—Efforts of operetta " Alice in Wonderland"—

Yasutoshi Kuse

Abstract

Through our efforts, I decided to focus on how students perceived expressions in childcare, thoughts, and what they are getting. I would like to suggest from this research note improvement of future guidance.

Key words : operetta, musical expression,

はじめに

平成 29 年度のオペレッタ『不思議の国のアリス』の取り組みに注目した。保育における表現を学生はどのように捉え、考え、何を得ているのかアンケートを実施した。この研究ノートから今後の指導の改善を示唆する。

調査にあたって

・調査実施日

平成 30 年 2 月 6 日 *総合発表会終了後日、学内清掃を兼ねて。

・調査対象

平成 29 年度後期「劇あそび (指導法)」を受講した保育科 2 年生 47 名を対象。(欠席在)

・調査項目

1. 『不思議の国のアリス』の発表についての評価
2. 配役を演じるにあたって心掛けたこと
3. 係の活動について
4. オペレッタの経験で得たこと
5. 今後、保育現場、教育現場で活かされるか
6. その他、意見、久世への要望

結果と考察

1. 『不思議の国のアリス』の発表についての評価

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
38人 (81%)	7人 (15%)	2人 (4%)	0人 (0%)

1-1. 〈満足・どちらかといえば満足〉と答えた理由（複数回答可）

	満足	どちらかといえば満足	
演目が気に入る内容であった	22人	1人	23人 (50%)
役（係）が楽しかった	25人	1人	26人 (55%)
仲間関係が深まった	13人	1人	14人 (30%)
お客様の反響が良かった	23人	4人	27人 (57%)
*その他	1人	0人	1人 (2%)

*その他

- ・王様役と相談して役作りしていく過程が楽しく、毎日やりがいを感じていた。

前回の『かさじぞう』は全員が満足感を得てくれていたが、今回2人の学生が不満を持っていた。しかも内1人はリーダーを務めた学生である。「仲間関係がうまく行かなかった」と回答している。もう1人は衣装作りでとても貢献してくれた学生であったが「衣装で不満をもった人から、辛いことをたくさん言われ楽しくなかった。」と回答している。

満足側の理由としては、「お客様の反応」「役（係）が楽しかった」「演目」とほぼ同数の割合となった。前回は8割を超える回答があった「仲間関係」が大きくダウンしているということである。自由筆記への回答も、最も印象強かった“赤の女王”を演じた学生と前記した衣装担当の学生僅か2人のみであった。

2. 配役を演じるにあたって心掛けたこと（要約）

- ・楽しく演じる。
- ・役になり切れるよう、映画を見て研究した。
- ・ミュージカルやヒーローショーの動画を観て、声のトーン、しゃべり方を参考にした。物語を読みこみ、キャラクターについて研究した。
- ・笑顔で声は大きく。
- ・人数が多くまとまりが必要。全員が出席するよう声をかけた。
- ・お客様に伝わるような身振り、花らしさ。
- ・アリスの世界観や声の大きさ、動きの大きさ。
- ・場面転換のタイミング。
- ・他のメンバーに迷惑が掛からないように。
- ・少しでも個性が出せるようにした。

- ・周りの意見を聞き入れ、自分なりにアレンジした。
- ・自分たちが楽しみながらできるように。
- ・ダンスを合わせる。ダンスのキレ。
- ・海の生き物としてキラキラした感じにした。
- ・全力でやりきること。おもいきり演じた。
- ・双子役だったので、息が合うように練習を重ねた。

概ね、見られているという立場と伝えたいという方向性がこれだけの回答を湧きあがらせてくれたものとする。印象に残った役の学生からは、いくつかの映像を観て研究したとの回答や、“お花たち”“海の生き物たち”“トランプ兵”と複数での役を演じた学生からは、協同の大切さ、複数ゆえの立ち位置や見せ方についての回答も上がり、練習での試行錯誤ぶりが思い出される。

3. 係の活動について

満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満足	不満足
19人 (40%)	21人 (45%)	7人 (15%)	0人 (0%)

理由 (要約)

満足	
演出 脚本	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスを考え、踊ってくれてよかった。 ・協力して、ストーリーが成り立つようにした。
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・作ったものをみんなが使ってくれていること。 ・みんなが喜んでくれたこと。 ・「不思議の国」をどう表現するか尽力できた。 ・道具リーダーの頑張り。 ・イメージ通りにできたこと。 ・自分に合っていた。
衣裳	<ul style="list-style-type: none"> ・作った衣裳を喜んでくれたこと。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・協力できて良かった。 ・分担できていた。 ・責任もってやり遂げた。 ・揉めることなく良いポスター、チラシができた。
会計	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんとできました。

どちらかといえば満足	
演出 脚本	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで一緒に作ることが出来た。 ・分かりやすく伝えるために台詞を改定していった。
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の割合がとして、半分程度しか手伝ってないと感じている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担が上手くいってなかった。 ・あまり参加ができず、反省している。 ・作る作業が難しかった。 ・材料の準備、色塗りがしっかりできた。 ・情報の共有ができてなかった。
衣裳	<ul style="list-style-type: none"> ・納得のいく衣裳ができた。 ・少しトラブルがあったりしたが、何とか完成できた。 ・評判は良かったようだが、大変だった。 ・作る作業が楽しかった。 ・すごく器用な仲間から教えてもらい、今後活かせると思った。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・まじめに取り組むことが出来た。 ・協力して作り上げることができた。 ・優しく、楽しく取り組めた。
ピアニスト	<ul style="list-style-type: none"> ・負担が大きかったが、充実していた。

どちらかといえば不満足	
演出 脚本	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担ができていなかった。
道具	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりが悪く、特定の人しか動いていない。
衣裳	<ul style="list-style-type: none"> ・係り皆で協力できなかった。もっと計画的に。
パンフレット ポスター	<ul style="list-style-type: none"> ・ペース配分が悪い。 ・やった感があまりない。 ・効率が悪かった。

今回は不思議の国が舞台であり、アリスが大きくなったり、小さくなったり、次々に変わる場面などなど、どのように見せていこうか筆者もかなり頭を悩ませた。そうした中でも学生たちの才能はみごとに開花してくれた。衣裳の華やかさはこれまでにない色彩であったし、道具も数多いシーンを見事に魅せてくれた。また今回初めてオーケストラピットを使い、現実と不思議の国へのトンネルとし、画像を投影することでアリスの伸縮やトランプ兵たちの対決を表現した。演奏面でも初めてエレクトーンを取り入れ、ファンタジーの世界により奥行きをつけることが出来た。改めて、秘めた才能に感心した。

一方、完成するまでのプロセスが大きな問題のようである。不満足な学生も出てきてしまうのはやむを得ないのかもしれないが、作業のプランニングや協働する力といった面への細かい指導が必要であろうと考える。

4. オペレッタの経験で得たこと（複数回答可）

考えを伝える能力が付いた	15人 (32%)
発想力が付いた	25人 (53%)
度胸が付いた	23人 (49%)

コミュニケーションがうまく取れる	14人 (30%)
歌が上手に歌える	7人 (15%)
声が大きくなった	22人 (47%)
パントマイムが上手くなった	6人 (13%)
*その他	4人 (9%)

***その他**

- ・仲間たちがどのようなことが得意なのか知ることが出来た。
- ・人の前に立つ者の在り方。

自由筆記

- ・自分の殻を破ることが出来た。みんなで一つのことに向かえることが出来たのが本当に宝物です。

「発想力が付いた」53%、「度胸がついた」49%と半数近い回答を得た。卒業生への調査(久世 2011)と似た回答となっている。前回『かさじぞう』では「考えを伝える能力が付いた」「コミュニケーションがうまく取れる」も5割以上の回答であった。項目1.でも触れたが仲間関係の浅さが伺える。音楽技能の面からいえば、「歌が上手になった」の低さは今後の課題として、「声が大きくなった」の割合も高くなっていることはプラスに捉えたい。

また、前回は多くの自由回答が挙げられたが、今回は1人だけであった。ちなみに、この学生はアリス役を演じ、4月からハウステンボス歌劇学院に進学、舞台人を目指し研鑽を積んでいる。

5. 今後、保育現場、教育現場で活かされるか (要約)

- ・発想力を活かしたい。
- ・子どもたちの劇活動、生活発表会での道具作り。
- ・職員の出し物。
- ・衣装を自分で作る能力がついた。自分の意見を伝えることが出来るようになった。
- ・子どもに伝えるときに、どう伝えればよいか、身ぶりや表情の大切さ。
- ・職場のメンバーとのコミュニケーション。
- ・子どもたちの前での手あそび、絵本など、堂々とハキハキ楽しく働きかけられるようになる。
- ・練習すればするほど上手くなったので、何事も頑張ればできるということ。まずは挑戦しようと思った。
- ・協力する力、自分の意見を言うことの大切さ。
- ・友達との関わり方。
- ・みんなで一つのもので作り上げる面白さ、楽しさ、大切さ。
- ・堂々と人前に立って保育ができそう。

6. その他、意見、久世への要望（特記）

- ・アリスが二人いるとは気づかなかったそうです。大人が観ても面白かったそうです。
- ・楽しかったです。もう一度したいくらい。（持丸）
- ・素晴らしい経験でした。ありがとうございました。
- ・連日の練習できついなと思いましたが、終わってみると寂しい気持ちになりました。家族にもミュージカルみたいだったと言われ嬉しかったです。（中村）
- ・だんだん形になっていくのが楽しかったです。先生の発想力は参考になりました。（中島）
- ・練習を重ねるごとに楽しくなり、本番も楽しめました。参加できてよかった。（今井）
- ・楽しい物語だったので良かったです。観に来た友達も面白かったといっていました。
- ・第一部「音楽会」でもピアノ演奏をして、良い体験ができました。自分に自信が付きまし、全員で一つのことをやり遂げる素晴らしさを学びました。（渡辺）

おわりに—今後の展望

今回の『不思議の国のアリス』は、お客様にとっても好評だったようである。誰もが知るファンタジーの世界を、華やかな衣装と舞台、画像のスクリーン投影を用いた演出、音楽もエレクトーン演奏で奥行きを持たせ、見事に演じてくれたと思う。項目5.「保育現場、教育現場で活かされるか」、項目6.「意見、久世への要望」での自由回答では、学生の衝動と成長が伺えとても微笑ましく思える。しかし、例年、面倒くさいと感じる学生もいる、学生の衝突も常であるが、今回ほど人間関係が不安定で、それを原因とした役の降板や活動そのものを辞退する学生が多かった年は初めてである。残念ながら前回『かさじぞう』のアンケート回答よりも自由回答が非常に少なく、全員から回収もできていない現状であった。1年次で取り組んだ音楽劇の創作活動のアンケート調査でも「最初が肝心」「グループの組み方の重要性」「他人任せにしない」と回答が挙がっていた。危惧していたSNSによる被害も起こっている。

今後は調査で挙げた各問題点を考慮し、学生の気質をしっかり捉え、絶妙な心の距離感を保ちつつ、刺激を提供し続ける所存である。また、領域「表現」のねらいと内容を租借し、豊かな感性と表現力を備えた子どもを育てるための具体的な支援と指導法の享受を肝に銘じ、今一度、オペレッタの取り組みを見直す時期に来ていると考える。

[参考文献]

久世安俊（2011）「表現Ⅲ」におけるオペレッタの取り組みとその意義『近畿大学九州短期大学研究紀要』第41号 33-42頁

久世安俊（2017）音楽表現技術の学び（Ⅱ）—音楽劇の創作活動—『近畿大学九州短期大学研究紀要』第47号 205-212頁

久世安俊（2017）オペレッタの取り組みから見えること—平成28年度オペレッタ「かさじぞう」の取組—『近畿大学九州短期大学研究紀要』第47号 213-220頁